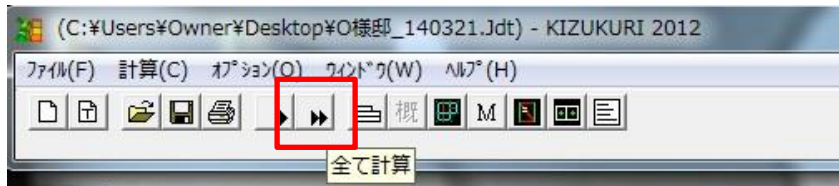


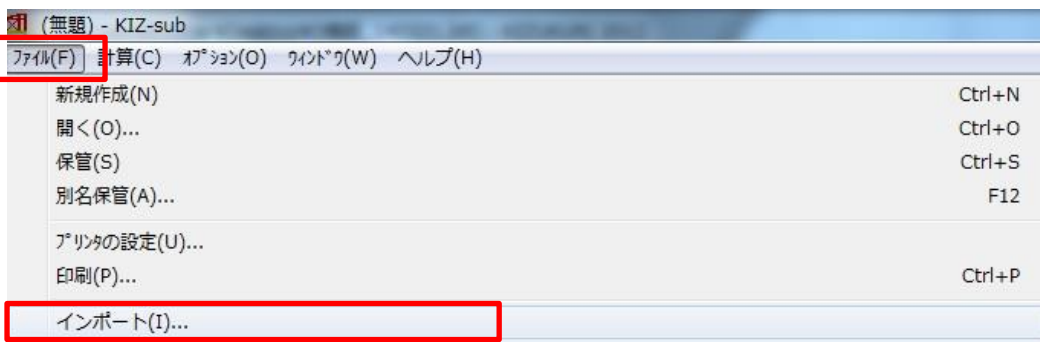
**Q. KIZ-sub データの『差し込み印刷』を行うには**

KIZ-sub で基礎や垂木等の部材検討を行い、その結果を計算書に反映させたり、また KIZ-run で基礎断面図を図面化することが出来ます。以下ではその流れをご紹介します。

検討を行う案件について、まず計算プログラム KIZUKURI で計算を実行します。



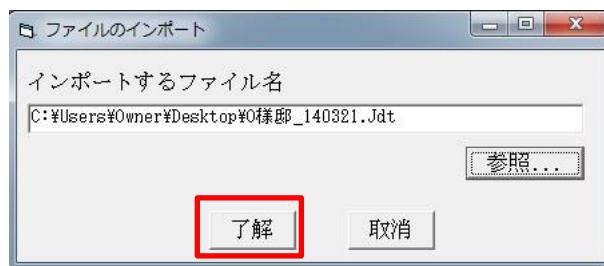
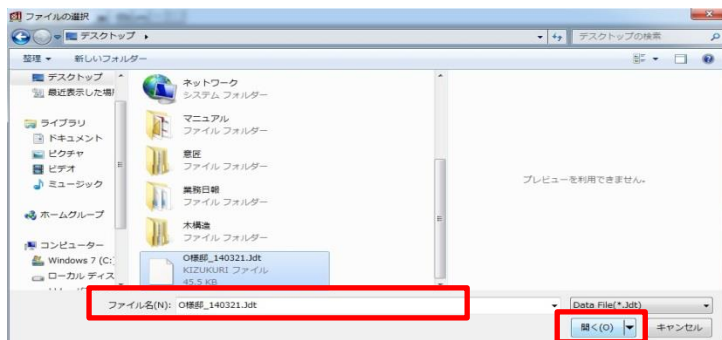
計算が終了したら KIZUKURI データを保存し、KIZ-sub を起動します。KIZ-sub の起動画面メニューバーから【ファイル】→【インポート】と進みます。



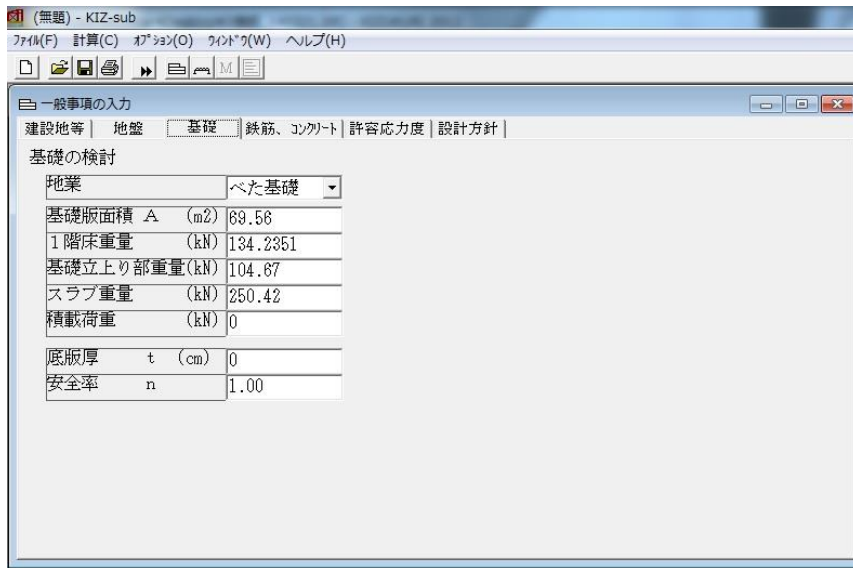
下のようなダイアログ画面が出ますので、【参照】をクリックします。



先ほど計算実行した KIZUKURI データを選択し、KIZ-sub にインポートします。



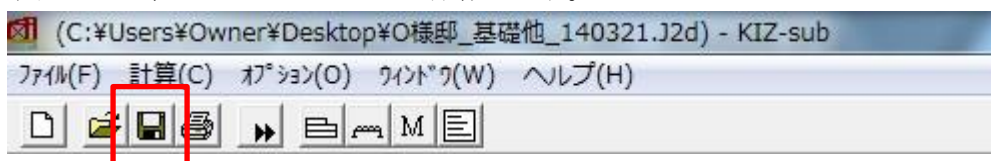
すると、KIZ-sub の【一般事項の入力】項目に、KIZUKURI の情報がインポートされます。内容をチェックし、取り込まれないデータ（スラブ厚など）を入力します。



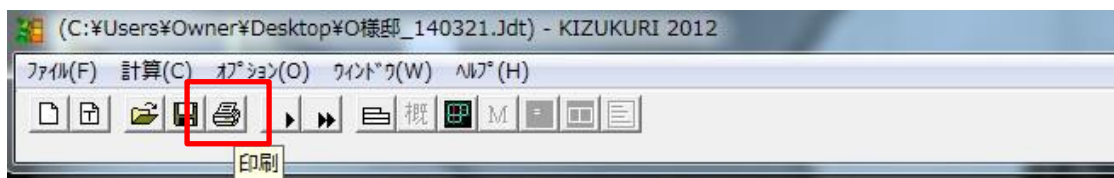
検討を行う部材の入力を行い、KIZ-sub の計算を実行します。



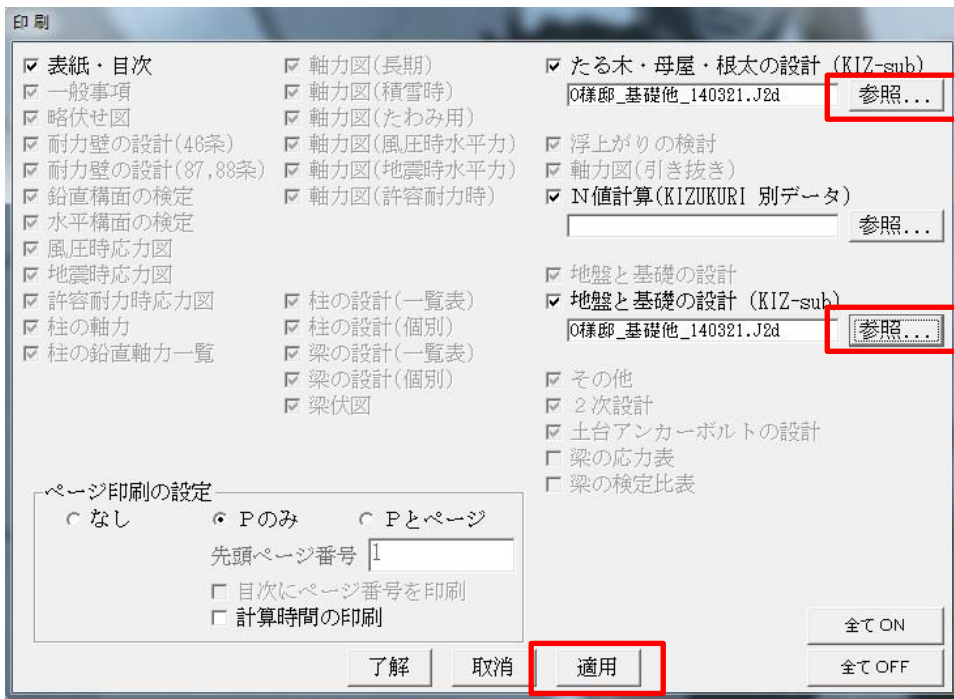
名前をつけ、KIZ-sub のデータを保存します。



再び KIZUKURI に戻り、印刷ボタンをクリックします。

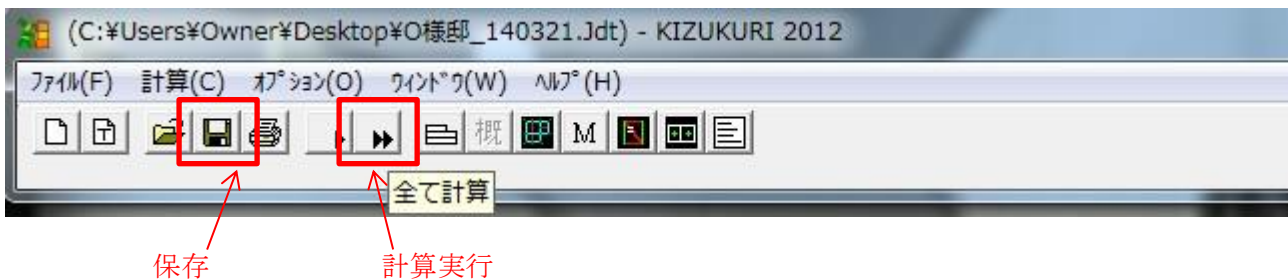



下のような印刷設定画面が出ますので、【参照】ボタンをクリックし、先ほど計算して部材検討を行った KIZ-sub のデータを選択し【適用】をクリックします。KIZ-sub の計算データが差し込み印刷設定されます。



この状態で計算書を印刷すると、KIZ-sub の結果も取り込まれ一体化した計算書が出力されます。

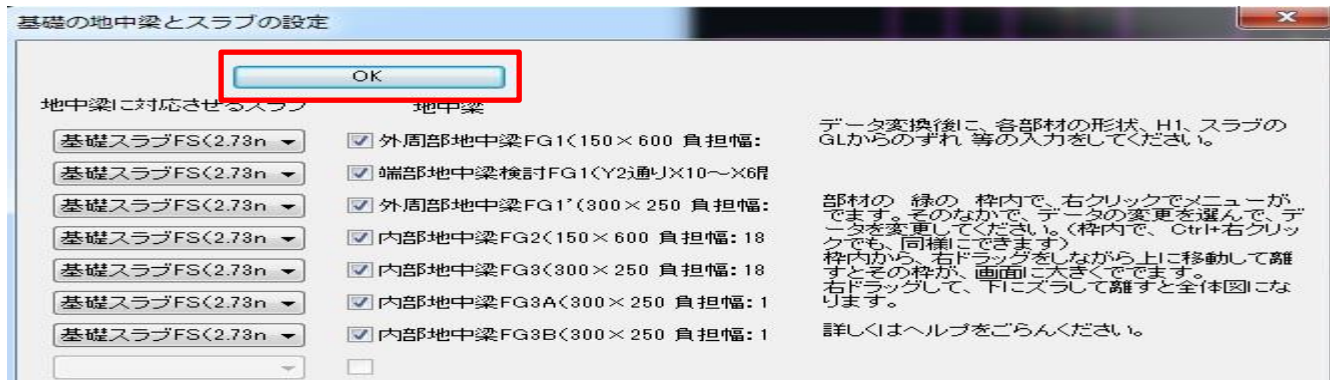
また、KIZ-sub で部材検討を行った基礎断面を KIZ-run で図面化することも出来ます。差し込み印刷設定が済んだら、もう一度 KIZUKURI で計算を実行し、データを保存します。



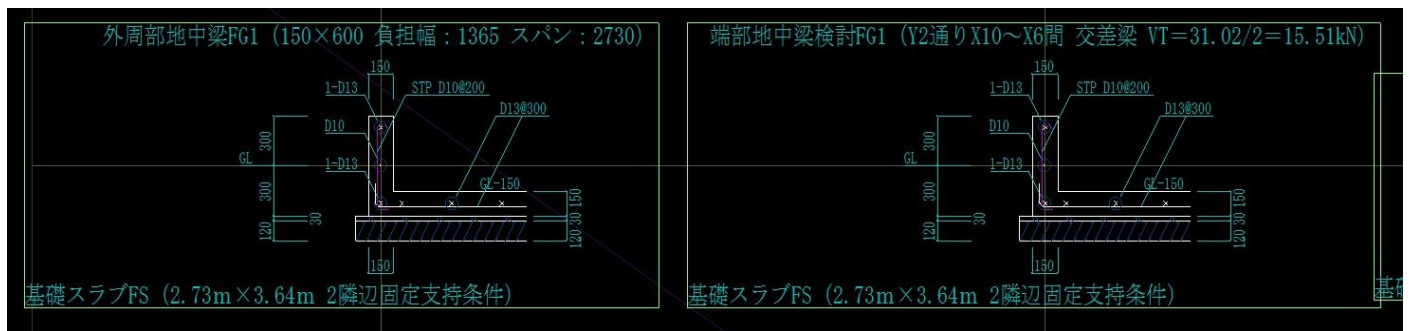
KIZ-run を起動し、差し込み印刷設定⇒保存を行った物件データを選び、 ボタンをクリックします。



KIZ-sub から読み込んだ基礎の情報が出ます。作図する基礎断面を選び、【OK】をクリックします。



KIZ-sub で部材検討を行った基礎断面が作図されます。



必要に応じて、編集や作図設定の変更を行い、出力します。